

グローバルな人材とは？

キリスト教学校教育懇談会

キリスト教学校教育懇談会は、第16回講演会「グローバル社会におけるキリスト教学校の役割―多文化共生社会の課題」を11月17日、東京・渋谷区の青山学院大学で開催した。日本の在留外国人が増え続けている現状に対して、キリスト教精神を教育理念とする「キリスト教学校」が忘れてはいけない視点について考え、その「立ち位置」を見つめ直す機会とした。

基調講演は明治学院大学の高桑光徳教授が「縮小時代を迎えた日本社会における多文化共生とは」というテーマで語った。高桑教授はまず、法務省のデータ（2018年6月末を基に、日本に暮らす約264万の在留外国人の出身を上位から順番に「中国・韓国・朝鮮・ベトナム、フィリピン、ブラジル、ネパール」と挙げ、次のように問い掛けた。



フロアからの質疑を受けるパネリストら

「英語は必要」と言われているが、日本では英語が必要な場面はいつでしょうか？

「日本政府は労働人口の不足を補うために、外国から労働力を入れています。外国人労働者の多くは、英語が母語ではありません。また日本の就職試験も業種により異なりますが、英語力（TOEIC）の得点が重要視されているわけでもない。そうした中で、大学生に

はないでしょうか？」

グローバル人材と

グローバルな人材

日本で「国際化」と

言えは、高い英語力を使って海外で活躍する

「外向きの国際化」が

主流だ。しかし明治学院

大学は2015年、高桑教授の発案で「内

なる国際化」プロジェクトを発足。日本社会

を在留外国人が住みやす

い社会に変えていくことが、国内の「国際化」につながるかと考え、それに対応できる学生の人材育成を始めた。

一般的に「グローバル人材」と言えば、高い英語力を使って、特に経済界で地球規模に活躍できる人材を指すが、高桑教授はこう話す。

「キリスト教学校の役割や可能性は、英語に偏らない言語教育、また英語圏に偏らない留学、平和教育や人権教育、さらに『持続可能な開発のための教育（ESD）』等だと思っています。『グローバル人材』の育成ではなく、各学校で、多言語・多文化に対応できる『グローバルな人材』の育成が広まることを期待しています」

「外国人につながる子ども」たちの支援活動について紹介した。AIAは、四つの修道会が運営母体となっている。低費の私塾で、公立の小・中学校で学ぶ「外国につながる子ども」たちの日本語が分からない、「いじめは毎日」「死にたい」といった声に真正面から向き合い、個別学習支援を行い、また子どもたちの居場所づくりや「心のケア」にも取り組んでいる。

中村塾長は「AIAは、人間形成塾のようなものです。この10年間、社会からはじき出される子どもたち一人一人に寄り添ってきました。外国人労働者とその子どもたちに目を向け、その窮状に

続く「発題」では、東京・足立区の足立インターナショナル・アカデミー（AIA）の中村友太郎塾長が、「外国につながる子ども」たちの支援活動について紹介した。AIAは、四つの修道会が運営母体となっている。低費の私塾で、公立の小・中学校で学ぶ「外国につながる子ども」たちの日本語が分からない、「いじめは毎日」「死にたい」といった声に真正面から向き合い、個別学習支援を行い、また子どもたちの居場所づくりや「心のケア」にも取り組んでいる。

対応できる「グローバルな人材」を育てることが大切です」と語っていた。

脱「英語依存」へ

最後に上智大学の木村護郎クリストフ教授が、日本の「英語教育」に疑問を投げかけた。日本では、「英語をもっと学ばないといけない」と思わせる傾向が強く、また「英語への過剰な期待と憧れ」があり、さらに「英語圏が世界のすべて」という勘違いもある。

「節英のすすめ 脱英語依存こそ国際化」

「節英のすすめ 脱英語依存こそ国際化」

「節英のすすめ 脱英語依存こそ国際化」

「節英のすすめ 脱英語依存こそ国際化」

「節英のすすめ 脱英語依存こそ国際化」

「節英のすすめ 脱英語依存こそ国際化」

「節英のすすめ 脱英語依存こそ国際化」

「節英のすすめ 脱英語依存こそ国際化」

「節英のすすめ 脱英語依存こそ国際化」

「節英のすすめ 脱英語依存こそ国際化」

「節英のすすめ 脱英語依存こそ国際化」

「節英のすすめ 脱英語依存こそ国際化」

「節英のすすめ 脱英語依存こそ国際化」

「節英のすすめ 脱英語依存こそ国際化」

グローバル化対応の力「ギ」の著者でもある木村教授は、こう指摘する。

「日本では英語の普及がまだ不十分と思われています。逆に言えば、実は英語に過剰に依存し、期待している問題が潜んでいるのだと思います。英語話者は世界の4分の1に過ぎません。アメリカとオーストラリアだけに比べて、『世界』を知ったと思う人がいるように、英語だけで『世界』を知ろうとすることは、『世界』の4分の3の人々を無視していることと同じです」

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

そして日本で「外国につながる人」と話すためには、まず①やさしい日本語で、そして②できる限り相手の言語で、最終手段として③英語を使って国際コミュニケーションを図るべきだと話した。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

そして日本で「外国につながる人」と話すためには、まず①やさしい日本語で、そして②できる限り相手の言語で、最終手段として③英語を使って国際コミュニケーションを図るべきだと話した。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

そして日本で「外国につながる人」と話すためには、まず①やさしい日本語で、そして②できる限り相手の言語で、最終手段として③英語を使って国際コミュニケーションを図るべきだと話した。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

そして日本で「外国につながる人」と話すためには、まず①やさしい日本語で、そして②できる限り相手の言語で、最終手段として③英語を使って国際コミュニケーションを図るべきだと話した。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

そして日本で「外国につながる人」と話すためには、まず①やさしい日本語で、そして②できる限り相手の言語で、最終手段として③英語を使って国際コミュニケーションを図るべきだと話した。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

そして日本で「外国につながる人」と話すためには、まず①やさしい日本語で、そして②できる限り相手の言語で、最終手段として③英語を使って国際コミュニケーションを図るべきだと話した。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

そして日本で「外国につながる人」と話すためには、まず①やさしい日本語で、そして②できる限り相手の言語で、最終手段として③英語を使って国際コミュニケーションを図るべきだと話した。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

そして日本で「外国につながる人」と話すためには、まず①やさしい日本語で、そして②できる限り相手の言語で、最終手段として③英語を使って国際コミュニケーションを図るべきだと話した。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

そして日本で「外国につながる人」と話すためには、まず①やさしい日本語で、そして②できる限り相手の言語で、最終手段として③英語を使って国際コミュニケーションを図るべきだと話した。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

そして日本で「外国につながる人」と話すためには、まず①やさしい日本語で、そして②できる限り相手の言語で、最終手段として③英語を使って国際コミュニケーションを図るべきだと話した。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

そして日本で「外国につながる人」と話すためには、まず①やさしい日本語で、そして②できる限り相手の言語で、最終手段として③英語を使って国際コミュニケーションを図るべきだと話した。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

そして日本で「外国につながる人」と話すためには、まず①やさしい日本語で、そして②できる限り相手の言語で、最終手段として③英語を使って国際コミュニケーションを図るべきだと話した。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

そして日本で「外国につながる人」と話すためには、まず①やさしい日本語で、そして②できる限り相手の言語で、最終手段として③英語を使って国際コミュニケーションを図るべきだと話した。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

そして日本で「外国につながる人」と話すためには、まず①やさしい日本語で、そして②できる限り相手の言語で、最終手段として③英語を使って国際コミュニケーションを図るべきだと話した。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

そして日本で「外国につながる人」と話すためには、まず①やさしい日本語で、そして②できる限り相手の言語で、最終手段として③英語を使って国際コミュニケーションを図るべきだと話した。

木村教授は、節度を

持って英語を使うこと、つまり「節英が必須」と強調。つまり、要だと強調。つまり、情報収集の手段として、国際共通語としての英語を使うことは可能だが、「内側（現地）からの視点を知り、現地のことを深く理解する」ためには、現地語が不可欠だという。

締めくくりにパネリストは、木村教授は「世間と同じ『グローバル化』を目標にするなら、そうしたキリスト教学校は必要ない。キリスト教学校が目指す『グローバル化』は自身が違はずだ」と述べ、また高桑教授は「他者への貢献」を表立って行うことができ、キリスト教学校の強みを生かしてほしい」と語っていた。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。

キリスト教学校教育懇談会は、キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会が共同で運営している。